



報道関係者各位

令和2年7月29日

青森県立保健大学

学外実習に関する取り組みについて

I. 概要

本学では、国家資格の取得を目標に入学する学生が多くいます。

国家試験の受験資格を得る条件として、実践力を身につけるために現場での実習が課せられます。

しかし、今年前半は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ほとんどの地域や大学での現場での実習が許可されていません。本学でも前期の多くの実習を実施することが出来なくなり、この代替として実践力を担保するための教育の工夫を行いました。

II. 教育の工夫

看護学科では、高精度シミュレーションモデルを用いて、実際の患者さんに近い身体反応をもとに対応の訓練をしています。また、保健師育成のための実習では、地域住民の方とコミュニケーションをとる機会を設けるために、本学が続けている「杖なし会」の高齢者に協力を得ました。

理学療法学科では教員が少人数グループの学生を担当し、遠隔授業も使いながら個別支援を行いました。また、実際の患者さんの動きを動画にし、動作を解析するなどの工夫を行いました。

社会福祉学科では、実習に何うはずだった施設の職員の方を招へいして、現場感覚を活かした学生の指導をしていただきました。また、感染対策を徹底した上での学内演習を充実させました。

III. 今後の対応

前期の授業は8月初めで終わりますが、10月からの後期に向けて、安全な臨地実習ができる体制を現場の方々を整えていくとともに、実習ができない際にも最大限の実践力を身につけさせる教育の準備を行っていきます。

問い合わせ*****

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1

TEL:017-765-2008 FAX:017-765-2188

担当：教務学生課 小山内

看護学科での取り組み



地域保健継続実習の代替として地域住民の方30名（杖なし会会員）に協力を依頼し、体育館で三密を避けてインタビューを行いました。本来なら地域包括センターから紹介していただいたケアを要する方を家庭訪問し、継続的に保健指導等の支援を行う実習です。

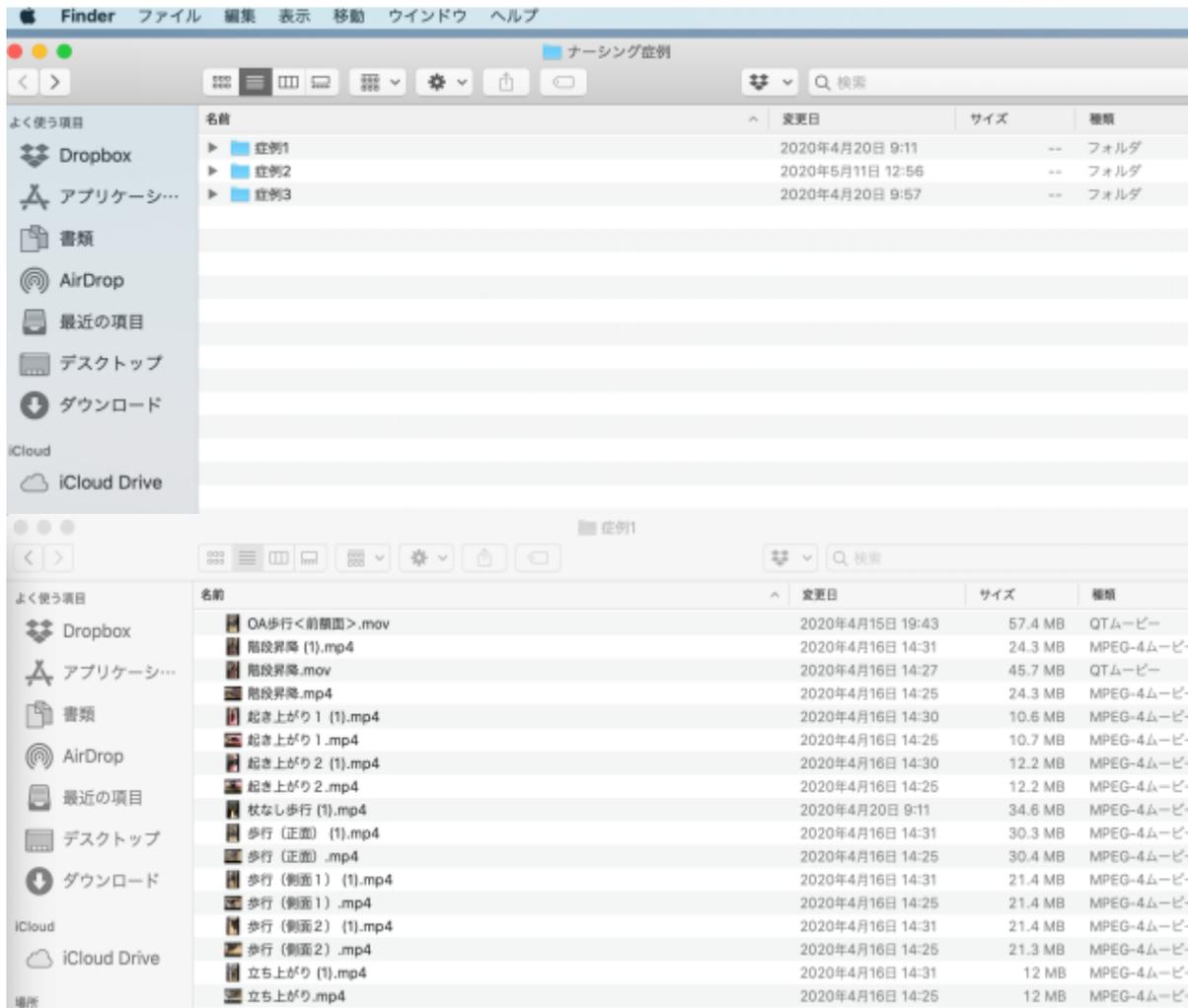


地域保健継続実習代替～マスク、手指消毒、体温測定を徹底し、面談しています。身体状況、精神的健康、社会的健康についてアセスメントし、対象者がその人らしく、よりよく暮らすためのケアの方向性を探ります。



地域保健継続実習代替
～家庭訪問場面を想定
して血圧測定もさせて
いただきました。椅子
の背もたれを活用しま
した。

理学療法学科での取り組み



臨床評価実習の代替として、これまでの実習の受け入れ先から患者の歩行等に関する動画を提供していただき、その動画を基に実施しました。

本来なら実習をとおして、症例の評価から治療プログラム立案までの学習を深める実習です。



症例ごとに学生に動画を配布し、学生は動画の患者さんの動作を基に症例等についてグループディスカッションし、教員とともに動作分析を行います。

社会福祉学科での取り組み



社会福祉基礎実習Ⅰでは、例年は食事の介助及び被介助の体験を行っていましたが、今年度は感染症対策として、車いすの介助及び被介助の体験を実施しました。



実習では配属実習での基礎技能の獲得等を目的としています。
車いすの介助者と被介助者を体験では、受きたい介助を効果的に理解するために実習施設の職員のを招へいし、学生が指導を受けながら学ぶ。